

例年通り5月16、17日に田植えを行いました。その後、新潟県内では4～5日に一度は雨が降る天気予報がでてほとんど雨が降らず、25～30度の真夏のような天候がつづいたことから、稲の生育も例年になく速まり、例年6月下旬に行う中干し江立て作業を1週間ほど早め6月16日から実施しました。

当農園の圃場では、用水が完備していることから、これまでは水不足等の心配もなく圃場の管理も順調に行ってきましたが、山間部の天水田や下流域の水田では水不足による被害も出始めています。

中干し江立て作業



定点生育調査



2台目の新しい除草機を購入



先月号から近年当圃場の周りで起きている稲作りの状況について、書き始めましたがしばらく続けて行きたいと思っています。当地区の農家は50a～1ha程の農地を持つ兼業農家が殆どでしたが、勤めの傍ら米作りを行い、その殆どを農協に出荷してきました。

しかし20年ほど前から、米価が下がり高齢化も進んできたことから、米作りを止める農家が増えてきました。政府の農業政策も手伝ってそれらの農地を借り受け20～30haを作る2～3の大規模農家が出現しましたが、なかなかうまく行っていないのが現状です。

それらの大規模農家では、田植えも1ヶ月以上遅れ、秋の収穫は2ヶ月も遅れ、最低の水管理や除草も遅れることから、適期に作業を行おうとする周辺農家に迷惑をかけているのが現状です。

昨年6月15日発生した畔の崩壊



今年6月14日発生した畔の崩壊



2年続けて、当圃場に隣接する、圃場の高さ約3mの畔が崩壊し用水路を塞ぎ、一部は当圃場にも土砂が流れ込みました。中干しや、江立てが必要な時期だったため、困ってしまいました。

両方とも米作りを止めた農家から、圃場借り耕作している大規模農家が管理している圃場です。

昨年の崩壊の原因は、高さ3mもある畔を、草刈機や鎌を使わずに毎年除草剤を使っていたため、草の根までが枯れ根で押さえていた、急傾斜の土砂が田植え後の水圧に耐えられず崩壊しものです。

今年の崩壊の原因は、田植え後水の管理を行わず、畔を越えるような大水をかけたまま数日間放置したため、畦を越えて流れ出た水に斜面が浸食されたためと、20cm以上に張られた圃場一面の水圧に耐えられず崩壊しものです。

両方とも、力量以上の面積を耕作していて、適正管理ができないことの現れだと思えます。

高齢化が進み、担い手のない現状では、耕作出来ない農地を受けてくれる大規模農家も必要だと思えますが毎年災害を起こすようでは困ってしまいます。

保冷庫管理米について

4月下旬以降は、美味しさを保つため保冷庫に入れ管理された玄米を、発送直前に精米し発送しています。

発行者：〒944-0023 新潟県妙高市西条755

妙高西条農園長 池田博子

☎ 0255-72-3497 fax 0255-72-2908

Eメール： ikeda@kanta.jp

ホームページ URL： <http://www.kanta.jp>